



2016 Annual Report

2016年 年次報告書

国際環境NGO グリーンピース・ジャパン
の取り組み



Message

from the Executive Director

2016年を振り返って
事務局長からのメッセージ



© Masaya Noda / Greenpeace

東京電力福島第一原発事故から5年を迎え、原発の廃止と自然エネルギー100%社会への移行をあらためて願った2016年。皆様からの力強いご支援とご協力のおかげで、グリーンピース・ジャパンは喫緊の課題である地球規模の環境問題に取り組むことができました。

グリーンピースは、原発の再稼働を止め、ネオニコチノイド系農薬の規制を政府に求めてきました。また、大手スーパーマーケットに有機農産物の品揃えを増やし、水産資源の持続可能な調達方針を求める活動を展開しています。沖縄・辺野古の新基地と高江のヘリパッドに反対する活動も続けてきました。皆様の賛同を得て、原発の再稼働と沖縄基地問題への反対の世論を高めることができ、年末には「ミツバチをまもるために農薬の使用規制も検討する」という方針を、日本政府が明らかにしました。2020年の東京五輪・パラリンピックを前に、持続可能な経営や調達方針の策定を進める機運が企業にも高まりつつあります。スタッフ一同、心より感謝申し上げます。

グリーンピースは、この1年、世界規模の環境保護活動に貢献してきました。リオ五輪開催前の8月には、アマゾンでの巨大

ダム建設中止に世界中で120万人が署名し、ブラジル政府が建設中止を決定しました。11月に発効したパリ協定では、これ以上気候変動を悪化させてはならないという危機感と、将来世代のために地球という共通財産をまもろうという決意が高まりました。

グリーンピース・ジャパンは、自然と共存し、公平で持続可能な社会の実現は可能だという信念を固くし、より大きな役割を担っていかねばならないと決意を新たにしています。皆様が持つ「社会を変えたい」という思いは、私たちのキャンペーンの原動力です。今後も、社会に根付いた環境保護活動を進めていく上で、共感し支援してくださる方の輪を広げていきたいと思っております。

2017年もグリーンピースの活動にご参加、ご協力下さい。

グリーンピース・ジャパン
事務局長 米田祐子

米田祐子

福島県三春町のコミュニティとの共同プロジェクト「えすべりソーラー発電所」が1月に発電を開始！ 太陽光パネルの設置に253人がクラウドファンディングで参加しました。オーナーの大河原さん夫妻は、原発事故直後、グリーンピースの放射線調査に協力してくれた有機農家さん。グリーンピース本部のブログでも紹介されました。



© Takashi Hiramatsu / Greenpeace

※前事務局長の佐藤潤一は、2016年3月31日に退任しました。サポーターの皆さまを始め、多くの方々からのご支援とご指導により、グリーンピース職員として14年半、そして5年4カ月の間、事務局長を務めることが出来ました。心よりお礼申し上げます。

Energy

東京電力福島第一原発事故から5年 虹の戦士号、福島へ

東電福島第一原発事故の発生から5年。原発事故は二度と起こしてはいけない—そして自然エネルギーへの転換を世界へ伝えるため、グリーンピースのキャンペーン船「虹の戦士」号が昨年沖縄に続いて福島を訪れました。

福島と琵琶湖で放射線調査

2月から3月、福島の河川流域と沿岸で放射線測定と堆積物サンプリング調査を実施。その後に行った琵琶湖での調査と比較し、福島の河川流域の堆積物で最大で2,000倍の汚染があったことを発表しました。新報告書『循環する放射能』と『水に沈む放射能』も発行、福井県に集中する関西電力の原発が万が一事故を起こした場合、琵琶湖や森林に長期的な被害をもたらす、森林や淡水系が放射能の供給源となりうると警告しました。福井県には「とめよう再稼働」署名の36,715筆を提出しました（2014年11月から実施）。また、老朽原発の高浜原発1、2号機の廃炉を求める裁判の原告となり、関西電力株主総会でのアピール行動など市民とともに活動しました。



福島第一原発沖を航行する虹の戦士号
© Christian Åslund / Greenpeace

家庭でも電力会社乗り換えが可能に

4月の電力自由化で、家庭でも電力会社を選べるようになりました。市民が発電方法などをもとに電力会社を選択することで、脱原発と自然エネルギー中心の社会への転換につながることを目的に、『iSwitch（アイスイッチ）』オンラインアクションを2月から開始。3月には電力会社179社へのアンケートを元にしたレポートを発表。電力会社の情報開示や自然エネルギー比率の目標設定の重要性を継続して訴えました。



仏原発で発覚した原発部品の強度不足問題

フランスの原発で、日本鍛鋼製の原発部品に強度不足問題が発覚。同国の原子力安全局は原発を停止して検査を命じたが、国内の原発でも同様の懸念があるにもかかわらず、原子力規制庁は検査の必要はないとしました。グリーンピースは検査の実施を求めて緊急署名を開始。年末までに15,812人が賛同しました。また日本鍛鋼製の部品が使われる川内原発のある鹿児島県に独自検証を要求。グリーンピース・ドイツから核問題のスペシャリストも来日し、規制庁への公開質問を日本の専門家や市民団体と共催しました。



「虹の戦士号」で福島第一原発沖を視察した菅直人元首相。国内外のメディアを通して、今も続く東電福島第一原発事故の現状と原発の廃止を訴えた
© Christian Åslund / Greenpeace



滋賀県・琵琶湖畔での堆積物サンプリング調査
© Christian Åslund / Greenpeace



エネルギーレボリューションを さらに力強く

柏木愛（エネルギーチームリーダー）

© Masaya Noda / Greenpeace

電力自由化で市民も自然エネルギーを選べるようになりました！ドイツ、ベルギー、スイス、フランスのグリーンピース事務所と共同実施する「エネレボ」は、より連携を深めながら進行中。国際的なネットワークを強みに自然エネルギー100%への転換を目指します。

Okinawa

沖縄「命の楽園」をまもって

楽園のように美しく生態系豊かな辺野古・大浦湾とやんばるの森。グリーンピースは、辺野古の新基地と東村高江のヘリパッド建設の中止を日本政府に求めて活動を継続。「平和な暮らしをまもりたい」と願う人々の声を映像で発信しました。

沖縄の声と自然美を世界に発信

グリーンピースは『命の楽園をまもって』署名を9月に開始。沖縄の美しい自然をリアルに体験できるように、辺野古や沖縄北部のやんばるで撮影した360度動画や空撮映像をソーシャルメディアで続々と公開しました。豊かな森は「戦争の道具ではなく様々な命がうまれる森にしたい」と語る高江の住民の方をはじめ、次の世代に命と平和をつなごうとする沖縄の人々の声を集めた映像は、国内外から共感を呼びました。



© Takashi Morizumi / Greenpeace



© Takashi Morizumi / Greenpeace



© Greenpeace

防衛大臣宛に署名提出

高江ではすでにヘリパッドが2カ所建設され、オスプレイの訓練による騒音被害が拡大していたにもかかわらず、12月13日、米軍の輸送機オスプレイが名護市安部の海岸で墜落事故を起こしました。グリーンピースは稲田朋美防衛大臣宛に署名の20,086筆を提出し（※）、住民の安全と環境をまもるためにオスプレイの運用停止も訴えました。



※一次集計には『辺野古・大浦湾を海洋保護区に』署名（2015年10月から2016年9月まで国内外で実施）も合算。

■ 主な発行物 / 報告書



動画：「いまから、沖縄にお連れします」（360度動画）



リーフレット：「沖縄・高江におけるオスプレイパッド建設」（辺野古・高江を守ろう！NGO ネットワーク発行）

住民や市民団体とも協力

東京でも様々な活動が行われました。9月には、有志の若者団体、国際環境NGO「FoE Japan」、国際人権NGO「ヒューマンライツ・ナウ」と共同で記者会見を実施。構成団体である「辺野古・高江を守ろう！NGOネットワーク」では、4月には住民やチョウ類研究者、地元議員を招いて院内集会と講演会を開催、10月には高江ヘリパッド建設差し止めを求めて高江の住民が起こした訴訟について日本外国特派員協会での記者会見をサポートしました。



チョウ類研究者の宮城秋乃さん
© Takashi Morizumi / Greenpeace



この目で見た、ありのままの沖縄を伝えたい

石井祐介（Ocean Lovers 沖縄プロジェクトリーダー）

私たちは今、大きな選択を迫られています。自然の恵みをもたらす「命の楽園」—戦争のために破壊されることから目をそらし続けるのか、それとも権力に屈せず、自然と共生する平和な生活を次世代に残すために行動するのか。沖縄だけでなく全国から一緒に考えましょう。

Oceans

海の環境・人権問題解決へ 『サステナブル・シーフード』

乱獲による魚の減少問題に比べ、東南アジアなどの水産業で起きている人権問題は知られていません。日本は国境をまたぐ海の問題にどう向き合うのか、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを前に世界の視線が注がれています。

絶滅危惧種太平洋クロマグロ保護の強化を

7月、グリーンピースは『マグロがいる海がいい』キャンペーンを開始。9月には集まった約4,000人の署名を水産庁に提出し、産卵期の禁漁と巻き網漁の規制導入を求めました。マグロの管理を決める国際会議（WCPFC北小委員会）に参加。遅々として進まない議論の中で米民間助成団体のビュー・チャリタブル・トラストと2年間の禁漁を要請し、国内外のメディアが保護強化の必要性を取り上げました。



© Paul Hilton / Greenpeace

サステナブル・シーフードはどこで買える？

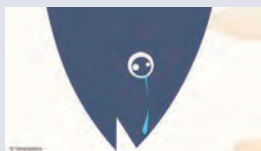
11月、国内のスーパー・生協が売る魚の持続可能性を評価する「お魚スーパーマーケットランキング6」を発表。水産資源の持続可能性を担保するための最低限の約束として、絶滅危惧種を売らないことを要請。一部のウナギを売らない企業はありますが、本マグロを取り扱わないと回答したのは生協のみ。しかし実際には販売していたことが分かり、グリーンピースは生協に調達方針の改善を求めました。



リーフレット：「スーパーマーケットランキング6」



■ 主な発行物 / 報告書



動画：「The Last Tuna」



レポート：
「サプライチェーンの裏側
—世界のマグロ産業にはびこる人権問題—」

その魚、人権問題に加担している？ 隠されたリスクを明らかに

グリーンピース・東南アジアの人権問題調査レポートを11月に翻訳発表し、水産関連企業が集まるシンポジウムで配布。今も水産業に根深い人権問題が存在すること、そして知らない

うちに加担することがないよう、企業の調達方針の強化を提言しました。公開されていませんが、複数の企業が東南アジアの子会社で現地調査を行い、自社のサプライチェーンから人権問題を防ぐ対策を始めています。



© Paul Hilton / Greenpeace



消費者の責任ある購買で サステナブルな日本へ

小松原和恵（海洋生態系担当）

先進的な海外のスーパーも始めからサステナブルだったわけではありません。海にも人にも配慮した水産物が日本でも広まる鍵は、消費者がその願いを声にする事。一人ひとりの小さな行動こそが大きな変化を起こせます。私たちと一緒に進めていきましょう！

Food 食と農業

オーガニック食品を選びたい

化学合成農薬・肥料は生物多様性を脅かし、人々の健康への影響も指摘されています。「オーガニック食品を選びたい」と、日本で広がる声を力に、豊かな自然と健康をまもる生態系農業への転換を呼びかけています。

身近なお店でオーガニック食品を買えるように

5月、7つの大手スーパー・生協の農産物の取り扱い状況を調査。オーガニックの安全安心な野菜とお米を現状より増やすことを求める「Goオーガニック」キャンペーンを開始しました。集まった12,034人の市民の声を企業担当者に提出し、日本で確実にオーガニックへの需要が増えていること、大量の農産物を扱うスーパーや生協による積極的な農薬削減の取り組みが求められていることを伝えました。



© Kengo Yoda / Greenpeace

海外専門家と日本企業のコラボセミナーを実現

7月、グリーンピース・インターナショナル科学部門の食と農業専門家が来日し、有機認証取得を進めるイオンアグリ創造株式会社と、企業向けセミナーを実施しました。オーガニック食品を通じた地域に根ざす販売戦略をテーマに、国内外の先進事例や農薬による環境汚染・健康被害の現状を紹介。生態系農業は消費者と生産者とのニーズを満たす実現可能な解決策であることを企業に伝えました。



オーガニック食品で体にどんな変化がある？

国内の二家族が初めてオーガニック食品だけの食生活に10日間挑戦。普段の食事と比べ尿中の農薬数値に差が出るかをドイツの専門機関に委託調査しました。結果、オーガニックの食事では農薬の数値が大きく減り、身体が農薬に晒されるのを避けるのにオーガニック食品は有効だと分かりました。結果をまとめた動画は、日英合計で250万回以上再生され、国内外で大きな反響を得ました。



動画:「オーガニック食品だけで10日間生活したらどうなる?」

主な発行物 / 報告書



レポート:

- 1月「遺伝子組み換え失敗の20年」
- 3月「有機農産物と農薬に関する消費者意識調査」
- 4月「ミツバチと食の危機」
- 6月「苗の残留農薬検査にみる農業の『適正使用』の限界」
- 12月「有機食品のみに切り替えた食事が消費者の農薬曝露に与える影響」



動画:

「ミツバチいないとどうなる!？」
(360度動画)



有機農家さんとの出会いから気づいたこと

土屋亜紀子 (広報担当)

有機農家さんと話すなかで、野菜が少し高かったり、見た目にも多少欠点があっても、安全な食べものを作り続けてくれる農家さんを想い「買い支える」消費者が必要だと気づきました。私たち消費者が一步ずつでもより生産者に近付けば、生態系農業が広がりやすい土壌が日本に広まると信じています。

Global

世界のグリーンピースの活動

世界各国の協調により、2020年以降の温室効果ガス排出削減等のための新たな国際枠組み「パリ協定」が発効。気候変動から地球をまもるため、自然エネルギー中心の社会へと前進した一年となりました。

長年の夢叶う 世界の海と森に野生動物の楽園が誕生

2月、オオカミやクマが暮らすカナダの温帯雨林「グレートベア・レインフォレスト」の85%が保護区に制定されました。グリーンピースは先住民とともに1990年代から政府や木材調達企業に保護を呼びかけてきました。

10月には、世界最大の海洋保護区が南極のロス海に誕生。1985年から南極の環境破壊の実態を告発し続け、各国政府へ働きかけた成果が実りました。保護区の拡大により、多様な野生動物が暮らしやすい未来に近づきました。



南極にすむキングペンギン
© Greenpeace / Gavin Newman



イタリアの作曲家/ピアニスト、ルドヴィコ・エイナウディが氷上コンサートで北極の保護を呼びかけ
© Pedro Armestre / Greenpeace

120万人の力でアマゾンの 巨大ダム建設が中止に



◀先住民ムンドウルクの少女
© Markus Mauthe / Greenpeace

リオ五輪開催国のブラジルでは、エネルギー需要の高まりからアマゾンの熱帯雨林でダム建設が進み、アマゾンの“心臓部”といえる森に流れる支流の一つ、タバジョス川でも先住民の暮らしを脅かす巨大ダムが計画されていました。グリーンピースは6月にブラジル政府とダム建設にかかわる会社に対しキャンペーンを開始。世界中から120万人もの声が集まり、ブラジル政府は8月、巨大ダム建設を中止を発表しました。グリーンピースは引き続き、他のダム建設計画の撤回を求めています。

日本の銀行も化石燃料からダイベストメントを！

米国のダコタ・アクセス・パイプライン建設は、事故が起これば先住民の水源地や神聖な土地を石油で汚染する懸念があり、300以上の先住民と共にグリーンピースも強く抗議してきました。現地NGOの調査から同事業への投資額トップ2企業は日本の民間銀行（みずほ、三菱UFJ）であることが分かり、グリーンピースは350.orgと共同で同2銀行と三井住友銀行に、化石燃料事業への投資を引き上げるダイベストメントを求めています。



© Jonathan Alcom / Greenpeace

People

グリーンピースの活動に参加する

グリーンピースではボランティアやインターンの方々を、一緒にキャンペーンを作り上げ、社会を変えていく大事なパートナーだと考えています。



2016年は「ボランティア&インターン」ウェブサイトをリニューアル



東京三鷹市の有機農園のイベントの様子
© Kengo Yoda / Greenpeace

サステナブルなライフスタイルを実践していたり、平和な社会を求めてアクションを起こしている方々、学生、生産者など多くの方々とともに様々な活動を行いました。オンラインでもネットワークが広がっています。グリーンピース・インターナショナルのFacebook「いいね!」数は270万人以上。グリーンピース・ジャパンのソーシャルメディアにも約15万人が登録しています。



虹の戦士号乗船体験、横浜にて

イベント参加・実施実績

- 1月 「えすべりソーラー発電所」開設記念パーティ(福島・三春)
- 3月 虹の戦士号乗船体験(神奈川・横浜)
- 4月 虹の紳士号乗船体験(京都・舞鶴)、アースデイ東京(東京・渋谷)、佐藤潤一前事務局長退任パーティ(東京・渋谷)
- 7月 オーガニックを通じて地域に根ざした販売戦略(東京・銀座)、都会でできるオーガニックな暮らし(東京・渋谷)、原発のない明日へ グリーンピース交流会(名古屋、静岡)
- 8月 原発のない明日へ グリーンピース交流会(福岡)、家族で楽しむ収穫体験(東京・三鷹)、#マグロがいる @海の家(神奈川・江ノ島)
- 10月 Yoga & Greenpeace Cafe~こころとからだ、ちきゅうにやさしい暮らし(神奈川・鎌倉)
- 11月 フランス発:原発部品 強度不足問題「日本の原発は、大丈夫?」原子力規制庁に公開質問(東京・参議院議院会館)
- 12月 沖縄高江の活動報告会(東京・新宿)、国際有機農業映画祭(東京・江古田)

メディア掲載活動

■気候変動・エネルギー問題

『東京新聞』(1月27日)、『神奈川新聞』(2月10日)、『The Japan Times』(2月26日)、『朝日新聞』(2月28日)、『日経産業新聞』(3月1日)、『AFP通信』(3月4日)、『CNN』(3月5日)、『The Guardian』(3月11日)、『THE WALL STREET JOURNAL』(3月22日)、『福井新聞』(4月21日)、『毎日新聞』(6月19日)、『NHK』(6月28日)、『共同通信』(7月21日)、『Bloomberg』(11月10日)、『MBC南日本放送』他(11月17日)、『池上彰のニュース2016総決算!ニッポンが危ない(TBS)』(11月23日)、他

■持続可能な漁業

『みなと新聞』『オルタナ』(1月29日)、『クーヨン』(2月3日)、『日本経済新聞』『SankeiBiz』(8月29日)、『さいたま新聞』『山口新聞』『熊本日日新聞』(8月30日)、『毎日新聞』(9月2日)、『クーヨン』『産経新聞』(9月3日)、『水産タイムズ』(10月20日)、『日本消費経済新聞』(12月5日)、『エシカルWAVE』『サステナブル・ブランド ジャパン』『オルタナ』(12月27日)、『朝日新聞』(12月31日)、他

■食と農業

『週刊SPA!』『しんぶん赤旗』(1月9日)、『クーヨン』(2月3日)、『日刊SPA!』(2月16日)、『土と健康』(3月25日)、『日本農業新聞』(3月27日)、『ハーバー・ビジネスオンライン』(4月3日)、『共同通信』(5月31日)、『千葉日報』『奈良新聞』『新潟日報』(6月1日)、『フジサンケイビジネスアイ』(6月14日)、『オルタナ』(6月21日)、『サステナブル・ブランド ジャパン』(7月6日)、『IN YOU』(7月28日)、他

■沖縄・基地問題

『THE BIG ISSUE』(3月25日)、『共同通信』(2月24日)、『京都新聞』(3月30日)、『共同通信』(3月31日)、『琉球新報』『神奈川新聞』『沖縄タイムス』(9月21日)、『しんぶん赤旗』(9月22日)、『琉球新報』(12月8日)、他



虹の戦士号乗船体験、横浜にて



私たちの生活をもっと良くするために

大館弘昌 (フィールドオーガナイザー)

社会問題の構造を「木」に例えると、問題自体は「枝葉」で、問題を引き起こしている原因は「根」の部分になります。グリーンピースは根本の原因に取り組むことで、社会問題を根底から解決できるような活動を目指しています。そのために必要なのが、社会にしっかりと根をはった「ピープルパワー」です。人々のパワーが社会の変化につながると信じています。仲間と一緒に社会を変える活動をしませんか?

Finance

2016年度 会計報告

グリーンピース・ジャパンの2016年度（1月～12月）における財務報告書は、国際会計基準（IFRS）に準拠して作成され、監査法人五大により会計監査を受けたものです。2016年度は昨年に引き続き、本部であるグリーンピース・インターナショナルに加え、ドイツ、スイス、フランス、ベルギー等の海外支部からも人的・資金的な支援を得ました。虹の戦士号を迎えての福島第一原発事故発生後5年をはじめとしたエネルギー分野、生態系農業への転換を呼びかける食と農業分野、海洋生態系問題への取り組みに加え、沖縄の辺野古・高江での活動等に精力的に取り組みました。

昨年後半、今年度前半と、二度にわたる虹の戦士号来日、原発問題や自然エネルギー促進、沖縄の問題への取り組みに賛同して下さる方々の寄付を多く頂きました。年度後半に収入が伸び、活動資金への再配分ができなかったため、また期中のスタッフの入れ替わりと採用の遅れ等による人件費予算が未達となり、今年度の収支は余剰金を残すこととなりました。こちらに関しては、翌年度の活動資金に有効に活用し、より幅広く持続可能な環境保護活動を行う為の財務状況改善に充当する予定です。

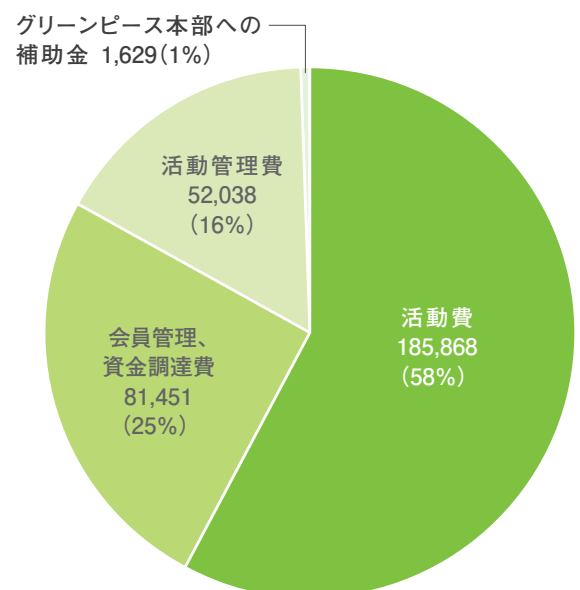
収支計算書(自2016年1月1日 至2016年12月31日)

収入 (単位:千円)	
寄付収入	136,048
グリーンピース本部からの助成金	126,850
グリーンピース他支部からの助成金	44,833
財団からの助成金	55,313
その他収入	262
	<u>363,306</u>
活動費用及び活動支出 ※別表参照	
活動費	-185,868
会員管理、資金調達費	-81,451
活動管理費	-52,038
グリーンピース本部への補助金	-1,629
その他(物販費など)	0
	<u>-320,986</u>
活動収支	42,320
活動外収入	
受取利息	5
為替差益	1
雑収入	3
	<u>9</u>
活動外費用及び支出	
保有株式評価損	-421
支払利息	-33
	<u>-454</u>
税引前収支	41,875
事業税	-70
税引後収支	41,805

貸借対照表(2016年12月31日現在)

資産 (単位:千円)	
流動資産	119,716
固定資産	4,031
有形固定資産	38
投資有価証券	1,912
その他資産	2,081
資産合計	123,747
負債	
流動負債	41,263
固定負債	0
負債合計	41,263
正味財産	
正味財産合計	82,484
負債及び正味財産合計	123,747

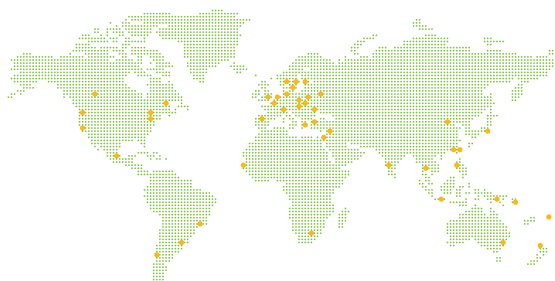
2016年 活動費・管理費の内訳 単位:千円



グリーンピース・ ジャパン 概要

- 【名称】 一般社団法人 グリーンピース・ジャパン
 【所在地】 〒160-0023 東京都新宿区西新宿 8-13-11 NFビル2F
 【設立年月】 1989年4月
 【代表者】 代表理事／青木陽子、細川弘明
 【事業対象分野】 地球環境保護（気候変動／エネルギー／原子力問題、海洋生態系保護、農業問題、有害物質問題、森林問題等）
 【活動対象範囲】 全世界
 【組織の目的】 地球規模の環境破壊を止めること
 【具体的な活動手法】 ●環境破壊の実態を科学的に調査・分析し公表 ●マスメディア、市民メディア、会員への情報提供
 ●環境破壊を止めるための行動の呼び掛け ●環境破壊の現場に行き、抗議活動
 ●環境問題を解決に導くための代替案の提示 ●政府・企業などへの提案・要請
 ●国際条約の交渉過程を監視、提言
- 【方針】 非暴力行動・政治的独立・財政的独立
 【会員】 約6,300人(国内)、約300万人(世界全体)
 【事務局】 国内有給職員 36名(うち、時間給制職員8名)
 【本部所在地】 オランダ・アムステルダム(日本を含む世界55以上の国と地域に事務所。有給職員約2,400名)
 【ホームページ】 www.greenpeace.org/japan
 【SNS】 Twitter: @GreenpeaceJP Facebook: www.facebook.com/GreenpeaceJapan

世界に広がるグリーンピース



- グリーンピース・インターナショナル(本部 オランダ・アムステルダム)
リーガル(法律)ユニット(ベルギー・ブリュッセル)
- グリーンピース・オランダ
- グリーンピース・ベルギー
- グリーンピース・フランス・ルクセンブルグ
フランス／ルクセンブルグ
- グリーンピース・イギリス
- グリーンピース・ドイツ
- グリーンピース・スイス
- グリーンピース・北欧
デンマーク／ノルウェー
フィンランド／スウェーデン
- グリーンピース・ギリシャ
- グリーンピース・イタリア
- グリーンピース・スペイン
- グリーンピース・チェコ
- グリーンピース・ロシア
- グリーンピース・中欧／東欧
オーストリア／ブルガリア／クロアチア
ハンガリー／ポーランド／ルーマニア
スロヴァキア／スロヴェニア
- グリーンピース・地中海
イスラエル／レバノン／トルコ
- グリーンピース・アフリカ
コンゴ／セネガル／南アフリカ
- グリーンピース・メキシコ
- グリーンピース・アメリカ
- グリーンピース・ブラジル
- グリーンピース・カナダ
- グリーンピース・アンデス
アルゼンチン／チリ
- グリーンピース・東南アジア
インドネシア／フィリピン／タイ
- グリーンピース・インド
- グリーンピース・オーストラリア・パシフィック
- グリーンピース・東アジア
北京／香港／台北／ソウル
- グリーンピース・ニュージーランド

■ あなたの思いを力に活動しています

独立・中立の立場から環境問題の解決を目指すグリーンピースの活動は、この報告書に掲載された成果もすべて、地球の未来をまもりたいと願う個人の皆さまのご寄付のみに支えられています。心より感謝申し上げます。誰もが安心して暮らせる緑豊かで平和な社会のために、あなたのお力をお貸してください。詳しくは直通電話 03-5338-9810、もしくは supporter.jp@greenpeace.org まで。

グリーンピース 寄付

検索



© Girgos Moutafis / MSF / Greenpeace

ギリシャ・レスボス島で手を取り合う人々。グリーンピースは国境なき医師団と連携し、中東などから海路で欧州を目指す移民の救難活動をしました。